

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
学校教育目標 「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで実践力のある児童の育成」 めざす子ども像「考える子」「思いやる子」「やりぬく子」 指導の重点 <ol style="list-style-type: none"> 自ら主体的に学び、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。 特別支援教育の充実を図る。 命や人権を大切にすることを育成し、心豊かな人間性を育む。 家庭や地域社会との連携を密にし、安全安心で開かれた学校づくりに努める。 	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 C 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学習状況調査の結果】 全国(小学校) ○国語A・国語B・算数Aについては、県平均と比べると正答率が高い。 ・(算数A)混み具合の比べ方の理解:本校98% (県89.9%) ○算数Bについては、県平均と比べると正答率が低く、示された情報や考えを解釈して解答することに課題がある。 ・条件に合う時間を求める:本校55.8% (県68.2%) ・32・40の二つの数の和が9の段の数になるわけを分配法則の式に表現:本校46.2% (県60.8%) ○理科については、県平均と比べて正答率が高い。 ・実験結果から言えることだけに言及した内容に改善して記述:本校53.8% (県36.4%) 県(小学校【3～5年】) ○国語…3年については、県平均と比べると正答率がかなり高い。5年は県平均より正答率が高く、4年は県平均より低い。 ・3～5年で、大事なことを落とさないように聞き取ることや指定された長さで文章を書くことはよくできているが、文章の構成を考えて書くことには課題がある。 ・4・5年では、段落の役割を理解して文章の内容を的確に読み取ることや文の構成についての理解にも課題がある。 ○算数…3年・5年については、県平均と比べると正答率が高いが、4年は県平均と同程度である。 ・数と計算の領域はできている問題が多いが、全体的に図形の領域に課題がある。 ・4年は、量と測定の領域「時刻と時間」「道のり」の問題に課題があった。	【学習状況調査の結果】 ①テレビ等の視聴時間 ・県調査では、平日にテレビ等の視聴やゲーム・インターネット等を1時間以上する児童の割合は、県平均より高かった。しかし、中学校区のメディアコントロール週間には、家庭の協力が得られ、カードの提出率は93%以上と取組が進んでいる。 ②家庭学習の時間 ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と答えた児童の割合は県平均よりかなり高く、昨年度より改善された。 ・「学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上勉強する」と答えた児童の割合は県よりかなり高く、また、平日の家庭学習時間が30分以下の児童はいない。 ③読書時間 ・学校の授業時間以外に、平日に30分以上読書をする児童の割合は県平均よりかなり高い。 ④あいさつ ・県調査では、「家の人、近所の人、先生にあいさつをしている」と答えた児童の割合は県平均より高いが、さらに声をかけていく必要がある。 ⑤全国調査では、「5年生までに受けた授業や課外活動で、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。」「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童の割合は県よりかなり高い。 ⑥「国語B・算数Bの調査問題の解答時間が十分でなかった」と答えた児童の割合が高い傾向がある。

成果	課題
○全国調査では、国語A・Bとも県平均を上回るところまで好転した。全学年、朝学習で読書や読解ドリルに取り組みさせることで、物語を読み取る力が伸びてきている。また、家庭学習等の継続的な取組で漢字の読み書きが定着した。 ○算数Aは県平均を上回る平均正答率を維持している。リビュー週間(全学年算数の授業時数年間10時間上乗せ)、佐良山タイム(4～6年補充学習年間12時間)の取組により、算数の基礎基本が定着した。 ○岡山型学習指導のスタンダード(授業5)が定着し、自力解決の場面で自分の考えを書く時間を保障したことで、文章を書くことに慣れ、文章を書く力も伸びた。 ○学習規律を徹底し、話し方や聞き方の指導を行い、大事なことを落とさないように聞き取ることでも始めている。 ○自主学習の表彰を行うことで、(宿題+自主学習)の習慣が定着し、内容の充実も図られてきている。また、年3回のノーメディア週間を設定し、家庭と連携して取り組むことで、家庭学習に関して家庭の理解・協力も得られ、家庭学習時間が増加している。	○算数Bでは、県平均との差が大きくなり、解答時間が足りなかった児童が多い。長文を読み、示された情報や考えを解釈する問題の平均正答率は県平均を下回り、文章を読み取る力に課題がある。 ○国語では、段落の役割の理解に課題がある。そのため、説明文を的確に読んだり、文章の構成を考えて書いたりすることが難しい。 ○主語・述語・修飾語等、文の構成の理解に課題がある。 ○読書愛好児童の割合は多いので、読書を通して目的を持って読んだり、分析的に読んだりする力を伸ばす必要がある。 ○テレビ等の視聴時間、インターネット等の利用時間が多くなる傾向がある。児童・家庭にメディアの上手な利用の仕方や時間の有効な過ごし方について呼びかける必要がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
読解力の伸長(示された情報や考えを解釈する力の向上)	年度末までに	全国学力調査において、算数Bの平均正答率を県平均並みにする。	・リビュー週間・佐良山タイムにおいて、文中の情報や考えを解釈する問題に取り組みさせる。(全学年) ・朝学習で国語読解問題の学習を継続し、長文を読み取るスキルを身につけさせる。(全学年)	・読解問題の学習は、計画的に実施できている。 ・秋チェックでの算数読解問題平均正答率は前年度問題の全国平均より高いが、同程度であり、成果が見えつつある。	B			
表現力の伸長(考えを広げたり、深めたりできる対話活動の工夫についての授業研究)	年度末までに	「自分の考えが上手に伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」という児童の割合を60%以上にする。	・ペア・グループ活動を充実し、「読んだり、聞いたりしたことに対して自分の言葉で表現する」場を設定する。 ・児童が自らの学びを自覚することができるような意図的なふり返りの場を設定する。	・秋の学習状況調査では、授業での話し合いについて88.8%、ふり返りについて70.8%の児童が肯定的に回答している。 ・考えを説明したり、書いたりすることが難しいとする児童は38.8%であり、意図的な継続的な取組が必要である。	B			
家庭学習の定着と充実(津山西中学校区重点指導項目)	年度末までに	「家で、学校の宿題をしている」児童を95%以上、「家で、学校の授業の予習復習をしている」児童の割合を60%以上にする。	・メディアコントロール週間に合わせて「宿題ばっちり週間」を設定し、児童の意欲喚起と家庭への協力依頼を行う。 ・「自主学習No.1」の表彰の取組を継続し、児童の学習意欲向上を図るとともに、予習・復習の良い例を示す。	・「宿題ばっちり週間」は、宿題をした児童が98%と意識が高まった。 ・秋の学習状況調査では、復習をしている児童が79.2%と、自主学習等での復習が定着してきた。予習については、内容・方法の指導が重要である。	A			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○家庭学習(宿題)の100%提出をめざす ○チャイム同時スタート・チャイム同時終了 ○授業の中に学び合いを ○ことばづかい ○きれいな教室 ○小中連携担当(中学校教員)による外国語の授業	○資料「家庭学習のスタンダード」をもとに、学級懇談等で家庭学習について話し合う機会を持ち、家庭に理解と協力を依頼する。 ○メディアコントロール・宿題ばっちり週間を設定し、テレビ・ゲーム・インターネット等の自制と家庭学習時間(学年×10+10)分の目標を示し、家庭学習時間の維持・学習内容の充実を呼びかける。 ○読み聞かせや教科・総合的な学習等において、保護者や地域の方に講師として専門性を活かした指導を依頼したり、地域の方と協力して地域学習を積極的に行ったりする。